

# 小施策評価シート (平成27年度実績評価)

施策コード	11	施策名	歴史・文化の継承	
小施策コード	11-1	小施策名	文化財の保護と活用	
小施策 主管課等コード	204500	小施策 主管課等名	歴史文化課	
評価責任者名	杉本 浩		内線番号	7350
評価シート作成者名	吉田 宏明		内線番号	7351

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に所在する有形文化財や天然記念物などは、後世に引き継いでいくため、収集、記録保存及び周辺環境を含めた維持管理に努める必要がある。また、地域に受け継がれている有形民俗などの文化財については、市民の歴史学習や地域学習のほか、世代間交流やまちの活性化のため幅広い活用を図る必要がある。</li> <li>無形民俗文化財は、伝承基盤が確立している保存団体がある一方で、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、保存団体の特性に応じた対策が求められている。</li> <li>遺跡などの埋蔵文化財については、各種の開発事業との調整を図るとともに、出土した埋蔵文化財の適切な管理や保存、調査を進め、その成果の公開に努める必要がある。</li> <li>志波城跡や盛岡城跡などの史跡については、基礎調査や整備・活用を計画的に進める必要がある。</li> </ul>
取組の方向性	文化財指定の有無にかかわらず、有形文化財や無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財などの保護を適切に進めるとともに、市民がより歴史や文化に興味をもてるように、文化財の幅広い活用を図る。
対象 <small>（誰（何）を対象として行うのか）</small>	市民，文化財
意図 <small>（対象をどのようにしたいのか）</small>	地域の貴重な文化財を次世代に伝える。

## Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 文化財数(国・県・市指定) (↑)	件	270	271	276	281
B 市保存建造物数 (→)	件	23	23	23	23
C 文化財(未指定も含む) 累積調査件数 (↑)	件	9,601	9,677	9,651	9,701

## Step 3 市民ニーズの把握

- ・ まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合は56.7パーセントであり、より一層の施策の推進が求められている。
- ・ 遺跡の学び館には、映像等を使用した、より分かりやすい展示を求める要望があり、展示の工夫が求められている。

## Step 4 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担 比率(%)
各主体の 役割の状況	市	文化財保護法と条例に基づき、各種施策の実施	30
	国・県・ 他自治体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財保存と活用のため、自治体への補助金、起債等財政支援措置の実施</li> <li>・ 国指定文化財の管理、自治体への指導等文化財保護法の推進</li> </ul>	30
	市民・ NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財の所有者として、保存管理</li> <li>・ 所有文化財の公開、保持団体としての継承</li> </ul>	20
	企業・ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財の所有者として、保存管理</li> <li>・ 所有文化財の公開、保持団体としての継承</li> </ul>	20

## 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

文化財の保護と活用については、文化財保護法に、政府及び地方公共団体の任務、文化財の所有者その他の関係者の任務が定められている。今後も、この施策を推進するために市の役割は現状維持とする。

## Step5 成果・問題点の把握と改革改善案

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 民俗芸能保持団体の後継者数が増加した。（30人）
- ・ 志波城跡公園来園者数が増加した。（26年度比525人増）
- ・ 文化財調査件数が計画より多く進捗した。
- ・ 埋蔵文化財については、文化財保護と開発事業との適切な調整（130件）や発掘調査（4件）及び整理作業（6件）の迅速化を図り、効率的に進めた。また、蓄積された既往の調査成果の活用（展示会）や発掘調査現場の積極的公開を実施した。
- ・ 郷土に愛着を感じる市民の増加に伴い、埋蔵文化財の持つ多様な価値への認識が高まった。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 市と無形民俗文化財連絡協議会がともに、青少年郷土芸能フェスティバルや次世代のためのリーダー研修会を開催し後継者の育成に努めた。
- ・ 志波城古代公園については、26年度末に、展示を含めた案内所及び堅穴式建物が完成し来園する市民の古代城跡への理解を深める体制が整った。

#### (3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

- ・ 無形民俗文化財について、今後も後継者育成・確保に努める必要がある。
- ・ 盛岡市歴史文化基本構想に基づき、文化財や歴史資源を活用したまちづくりを推進する必要がある。
- ・ 史跡指定に向け、複数の遺跡等を学術調査する必要がある。
- ・ 史跡等の歴史的価値を保全するため、保存・環境整備等の措置を講ずる必要がある。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 志波城跡保存整備事業については、長期にわたる保存管理計画、用地取得計画について安定、継続した財源の確保が必要である。
- ・ 民俗芸能保持団体について、全体の後継者は増加したが、後継者が不足している団体が増加した。
- ・ 有形文化財等の保存、修繕のための経費が不足している。
- ・ 適切な埋蔵文化財出土資料の収蔵・保管体制の構築が必要である。

## **(2) 現状の問題点が生じている原因**

- ・ 志波城跡保存整備事業については、国庫補助金の交付が予定よりも不足する事態が発生し、事業が長期化している。
- ・ 民俗芸能保持団体における後継者不足団体の増加は、少子高齢化、中山間地の人口減少によるものと推察される。
- ・ 埋蔵文化財の発掘調査に伴い、出土資料が増え続けている。

## **(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題**

- ・ 事業を少ない経費で実施する方策を考え、取り組む。
- ・ 無形民俗文化財における後継者不足については、後継者を増やす方策を考える。

## **3 改革改善案（上記 1 (3) 及び 2 (3) で設定した課題に対する具体の取組）**

- ・ 無形民俗文化財連絡協議会内で後継者不足団体への担い手の紹介等支援策を実施する。
- ・ 文化財の修繕、保存・維持・環境整備のための事業について、これまで以上に町内会等地元市民を活用した事業を増加するように努める。
- ・ 地域課題解決プログラムをはじめとする大学との協働研究事業等に参加する。
- ・ 国の財政的支援措置を得るため、歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定に取り組む。
- ・ 出土資料の活用頻度によりランク分けし、ランクごとに再配置を行う（活用頻度の低い出土資料は棚間収蔵する）。

## **Step 6 小施策と構成事業の関係性**

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業**  
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由**
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）**